

美しすぎた愛の終りは、汚れないからだのまゝ死ぬこと……日本映画最高のコンビで描く愛の名作。

山口百恵
三浦友和
主演

泥だらけの純情

《カラー作品》
東宝株式会社配給

東宝

泥だらけの純情

《カラー作品》

●スタッフ

原作■藤原審爾（「双葉社刊」「春陽堂文庫」）
監督■富本壮吉
脚本■石森史郎
製作■堀　威夫
〃　笹井英男

東宝／ホリ・プロ提携作品
（株）ホリ企画制作・製作

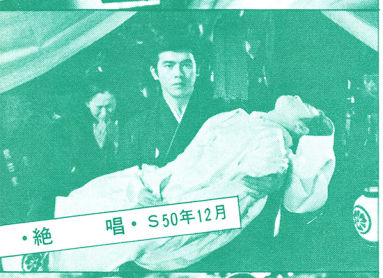
●キャスト

樺島真美……山口百恵
次　郎……三浦友和

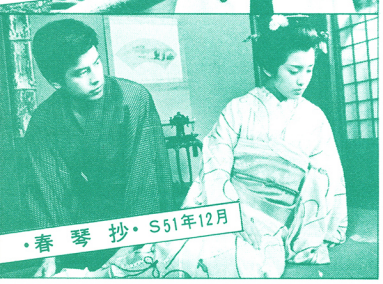
《百恵・友和フィルモ・グラフィー》


・伊豆の踊子・S49年12月


・潮　騒・S50年4月


・絶　唱・S50年12月


・風立ちぬ・S51年7月


・春　琴　抄・S51年12月

●かいせつ

「伊豆の踊子」から数えて6作目（フィルモ・グラフィー参照）、一作ごとに多大な話題と、熱狂的な人気を呼び起し、いまや若者たちの《愛のシンボル》にまで聖化された山口百恵・三浦友和のゴールデンコンビが贈る青春文芸大作です。

外交官の令嬢・真美（山口百恵）と、一匹狼のやくざ・次郎（三浦友和）を主人公に、与えられた環境の中で精いっぱい生きた若者の姿をドラマチックに描き出すこの作品は、ぬるま湯的平和の中でうごめく現代の若者たちに強い衝撃と共感、そして感動を呼ぶことでしょう。

藤原審爾の原作を石森史郎が脚色、監督は富本壮吉。

●ものがたり

樺島真美が高倉次郎に初めて会ったのは湘南海岸であった。暴走族にからまれていたところを、外車で通りすがった次郎に助けられたのである。

真美の父は外交官で、外国暮しがもう長い。母とは死別しており、樺島コツェルンの会長である伯父を後見人とした何不自由ない生活を送っていたが真美はいつも孤独だった。

一方、次郎は一匹狼のヤクザだった。裏の世界の情報に明るく、ヤクザ組織の弱みを握っている次郎は、どこの組からも恐れられている存在だった。かつて鬼警部と異名された父を、警察とヤクザのゆ着問題の犠牲となって消されて以来、次郎は、警察とヤクザ組織に復讐を誓ったのである。

ある日、横浜の街でチンピラにからまれていた真美は、再び次郎に助けられた。チンピラは組織暴力団・塚田組の組員で、麻薬の運び屋だった。真美を逃がした次郎はチンピラのナイフを受けて深傷を負ったが、乱闘のどさくさの中でチンピラは、誤って自らを刺して死んだ。

次郎は殺人容疑で警察に連行された。日頃次郎の存在をうとましく思っていた塚田組は、あらゆる工作をして次郎を犯人に仕立て上げようと図った。しかし、新聞で事情を知った真美が警察を訪れて次郎の潔白を証明、ただちに次郎は釈放された。

真美をお礼の食事に誘ったあとに次郎は、もう二度と会うこともないだろうといって、彼女と別れるのだった。次郎の孤独さが真美の心に翳りをおとしていった。

真美は大学に通いながら一流デザイナーについてデザインの勉強をしていた。そのショーの打ち合わせにホテルを訪れた時、はからずもそこで次郎と再会した。真美はショーの招待状を次郎に渡した。それが二人を急速に親しくさせていった。次郎も孤独だったし、真美も孤独だった。次郎は、真美の清純さ、美しさに強く魅かれていく自分をどうすることもできなかった。住む世界が違うんだ、もう会うまい——と思いながらも次郎は、すこしでも次郎と同じ世界に生きようと、皮ジャンやジーンズを身につけて現われる真美のひたむきな姿に出逢うと、かえって愛しさがつのるのだった。

しかし、真美がヤクザとつきあっていることを知った伯父は、真美をパリの大学に留学させる決心をしていた。

その頃、塚本組の麻薬ルートが警察に摘発された。次郎が密告したと思い込んだ塚田は、次郎を抹殺しようとチンピラをさしむけた。

過去を棄て家を棄てて二人だけで生きようと、真美と次郎は固い約束をかわした。しかし、二人がそれを実行にうつそうとした時、すでに塚田組の魔手が二人に迫っていた……！

7月30日(土)より大公開

特別ご鑑賞券発売中

ヒビヤ
千代田劇場
TEL591−1716

ハチ公前
渋谷宝塚
TEL461−8779

西郷銅像下
上野東宝
TEL831−2759